

今年、大阪市や京都市、鎌倉市内などで水道管が破裂し、あたりが水びたしになったことがニュースになりました。事故があった水道管は、埋められてから60年前後にわたって使われてきたものということ。実は、テレビに取り上げられていなくても全国のあるところ、水道管からの漏水事故がひんぱんに発生していると考えられます。主な原因は、水道管の老朽化だと考えられます。

今年、大阪市や京都市、鎌倉市内などで水道管が破裂し、あたりが水びたしになったことがニュースになりました。事故があった水道管は、埋められてから60年前後にわたって使われてきたものということ。実は、テレビに取り上げられていなくても全国のあるところ、水道管からの漏水事故がひんぱんに発生していると考えられます。主な原因は、水道管の老朽化だと考えられます。



を、全部つなぎあわせた時の長さ)は、令和4年度末時点で約74・4万キロメートルに及びます。地球一周の長さが約4万キロメートルなので、地球18周分よりも長い水道管が、地面の下で、水道水を運んでいることになります。

中には新しい水道管もありますが、国が決めた法定耐用年数(使い続けられる年数)の「40年以上」が経過した水道管(「経年管」)が令和4年度末時点で20%を超えています。まもなく地球5周分の長さの管が経年管になるとみられます。

は、当時には優れた材質であったけれども、年数を重ねて、土の中でもろくなっていきます。さらに悪い土壌という条件が重なると、もろくなるスピードが一層速まるとみられています。

災害が多い日本では、老朽化した水道管を新しい、また地震などによる衝撃や地面の動きにも強い「耐震管」に交換していくことが、断水を起こさないために重要です。

早く変えたい！
だけど…



ろうきゅうかんがこわれて漏れ水事故がおき、水びたしになった様子

いいのですが、それには問題があります。

一つは「お金」の問題です。水道局が新しい水道管を買うにも、工事をしてくれる技術者さんへの支払いにも、お金がかかります。皆さんから集められた水道料金から支払われますが、人口が減っていることで、水道料金収入が減っています。さらに、現在、物価高騰が社会的な問題になっていきます。水道管工事でも同じで、水道局が

工事用にこれまでと同じ金額を用意しても、工事できる水道管の長さは年々短くなっています。

次に、「人」の問題があります。工事の設計をしたり、発注をしたり、管路を入れ替えたりする技術者が、水道局から、会社からも、高齢化などによってどんどん減っています。こうした理由から、全国で交換のペースが下がっているという問題があります。

水道局では、こうした問題に悩みながらも、「優先的に交換すべき管路」を決めて、限られたお金や人材を当てることで、事故や災害が起きた時の断水のダメージを少なくしようと工夫しています。

「優先的に交換すべき管路」を決めるには、AIや、人工衛星からのデータなど、新しい技術を使った取り組みも始まっています。

少しでも効果的に